

令和4年度 第2回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者
令和4年10月18日(火)	進行 黒田 匠 記録 猪田 謙	出席委員 ・川名祐貴子 ・笠原めぐみ ・佐藤 純子 ・井部 孝一 ・柳沢 恵子 ・石田 永 ・野池 康一 ・上野 裕文 ・大瀧 明美 ・布施 徹 ・仁田 秀三
<p>第Ⅰ部 授業参観</p> <p>(1) 大潟町小学校 授業参観 13:45～14:15</p> <p>(2) 大潟町中学校 授業参観 14:40～15:10</p> <p>第Ⅱ部 協議 15:17～</p> <p>1 開会</p> <p>2 小、中学校長あいさつ</p> <p>(1) 大潟町小学校 石田校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況(夏休み～10月) 学級閉鎖、また1日で感染者、濃厚接触者併せて50人程度の日が続いたため、9～10月に予定されていた授業参観、学習発表会を中止した。 ・地域に児童の学びを還元する活動として、人魚館の壁画制作、竹田酒造とのコラボ等を行っている。 <p>(2) 大潟町中学校 野池校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のCSは前回、上野会長から提案があった授業参観を実施した。9年間にわたる学びの姿を委員の皆様から見ていただくことができた。 ・令和4年度、1年間の半ばを過ぎた。これからも確実に教育活動を進めていく。 <p>※令和4年度大潟コミュニティスクール委員会副会長自己紹介</p> <p>仁田 秀三副会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市教育委員会、教育センターに在籍、当CS3年目 ・久しぶりに学校の授業参観をした。 <p>※上野会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の壁画塗りに参加した。細かいマス目の下書きをしてからという行程だった。地域の施設が小、中学生によって彩られるのは地域への貢献であり、地域愛につながる。 ・10月18日にあいさつ運動に参加した。小学校の玄関では、元気いっぱいにあいさつする姿が見られた。一方で、バス停等では返事が返ってこないこともある。地域から積極的に声をかけ、あいさつを続けていく必要がある。 		

3 議事（議長：上野会長）

（1）小学校からの説明（石田校長）

【前期児童アンケートの結果について】

- ・児童は自己評価が甘い傾向があるため、「そう思う」のみ肯定回答だと捉える。
- ・授業中の発表意欲、あいさつ、メディアとの関わり等、児童自身も自分の状態が分かっている結果となった。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないこと」についてはよく理解している。「学校のきまり」については、これからも廊下を走らないことを継続していく。
- ・課題としては学力向上、人間関係づくりが挙げられる。2学期から取り組んでいる「絆タイム」（毎週木曜日の昼休み後の15分）での活動が好評。

【前期保護者アンケートの結果について】

- ・保護者は「そう思う」「だいたいそう思う」も含めて肯定回答と捉える。およそ児童の結果と同様であった。
- ・「読書」「家庭学習」「あいさつ」については学校と家庭が連携していく。
- ・学校への意識については肯定回答の割合からほぼよいと捉えられる。

【目標設定シートについて】

- ・教育課程、学校の教育活動等について、職員の自己評価、学校評価を基に作成している。大谷選手が高校時代に使っていたものを参考にしている。児童の日常生活、心つながる幸せを評価につなげている。

【2学期からの教育課程の変更について】

- ・校時表の見直しを図った。また、チャイムを廃止したが、思ったより児童は時間を守ろうとしている。
- ・マラソン大会を実施しない代わりに、日々の体育授業の充実を図る。生涯スポーツにつながり、運動の楽しさを実感できるものにしていく。

質疑応答

<井田>

- ・職員による目標設定シートがすばらしい。保護者に配付してもいいのではないか。

<上野会長>

- ・赤く塗られた数が少ないものと多いものが視覚的に分かりやすい。学年の差がある気がする。

<石田校長>

- ・学年内での違いは学級担任の評価がそれぞれであるため。

<仁田副会長>

- ・校長から一言で課題を述べてほしい。

<石田校長>

- ・学力向上については、全国学テ、NRTの数値で全国や県の数値より低いものが多い。
- ・人間関係づくりでは、トラブルが絶えない。縦割りJチームで上学年のリーダーシップを育てたい。
- ・けがが多い。骨折がすでに今年度に入って15人。

<上野会長>

- ・SNS、動画について課題とあるが、所持率は把握しているか。親の責任で購入しているものであり、約束づくりなどは家庭で話し合われているか。正しい使い方について伸ばしてほしいし、違う方向へ伸びていかないようにしたい。

<石田校長>

- ・親の判断、責任で購入しているものなので、最終的には保護者に任せなければならない。

<上野会長>

- ・校時表の見直しについて詳しく教えてほしい。

<石田校長>

- ・朝学習については学級担任に一任している。国語や算数の基礎練習をするなど、通常の授業でしたいことに使っている。また、NIEの実践として、新聞社からのプリントや子ども新聞の見出しを考えることなどを行っている。

<上野会長>

- ・子ども同士の絆が希薄になってきていると言われている。ロングの昼休みを絆タイムとしているが、担任の負担となっていないか。

<石田校長>

- ・子どもたちが楽しみにしていると担任から聞いている。

<笠原>

- ・マラソン大会の中止が残念。マラソン大会は向上力や競争心を培う。

<石田校長>

- ・向上心や競争心は体育以外でも育成できる。ライフスタイルが変わり、家庭の教育力も変化する中、どんなに強制、注意してもマラソンの途中で歩く子どもが多い。時代が変わる中、生涯スポーツにつなげていくことが大切であると考えている。

<笠原>

- ・競争のない社会、徒競走をなくす学校もある。子どもの能力や競争の場面がほしい。

<仁田副会長>

- ・学習発表会が中止になったが、学年や学級単位で他の場面に変わるものがあるか。

<石田校長>

- ・親子活動や授業参観等に発表活動を取り入れていく。日常の発表等を動画で撮影して、iPadを持ち帰ったときに家族に見せることも考えている。

(2) 中学校からの説明(野池校長)

【前期学校評価アンケートの結果から】

- ・「学校生活は楽しい」という結果を真っ先に見る。97.7%の肯定回答があった。
- ・保護者アンケートでは、学校の姿勢や信頼に対して95%以上の肯定回答であった。人與人、大人同士、大人と子どもの関係を大切にしていく。
- ・生徒は気さくにあいさつができる、気配りができる、ポテンシャルをもっている様子が見られる。
- ・職員の頑張りも見られる。キャリアに関係なく、コロナ禍でも職員には一生懸命にやってもらっている。

【その他学校の近況について】

- ・壁画制作を2年生が行った。地域の方々に協力をいただき、喜んでいただけて良い活動となった。
- ・3年生は9月半ばに修学旅行を無事終了した。ちょうど感染が広がってしまっている中ではあったが、県内の魅力を学ぶことができた。これからは進路について後押しをしていきたい。
- ・1年生は小学校6年生の体験入学の企画、運営を行った。充実感を十分味わえる活動になった。
- ・新人戦は短い練習時間の中で精一杯頑張り、成果が見られた。野球は合同チームとなったが、3校合同の練習には難しい点も見られた。
- ・10月28日（金）にオープンスクールを実施する。午前は学習参観、その後音楽祭、PTA総会を行う。
- ・PTA組織の改革については多くの賛同を得た。

質疑応答

<川名>

- ・1年生の体験入学は7月に行っている学校が多いが、大潟町中はなぜこの時期なのか。

<野池校長>

- ・担当が中1の生徒ということが続いている。1年生の生徒や担当がしっかりと準備したいという願いをもっていた。

<笠原>

- ・土日の部活動について

<野池校長>

- ・県内は市町村によって大きな差がある。上越市は令和8年度には地域に移行するというゴールがある。大潟町中はしばらくは現行。受け皿がどうか。体操や野球が強いなど、大潟区独特のよさもある。指導者は待っているかもしれない。しかし、担当は把握していない。今回の野球の合同チームでも感じたが、地域によって雰囲気が違う。大潟区のこれらを考えると、ゆっくりしていると置いて行かれるかもしれない。

<上野会長>

- ・大潟町中は外部指導者は0。全面的に外部指導者は難しい。保護者の責任で練習することになる。「やりたい」という教員もいるだろうが、学校の教員が加わるとややこしくなる。しかし、「やりたい」という地域の人や教員の気持ちを大切にしたい。部活動が好きな子どもは力を伸ばしている。

<井田>

- ・ジムリーナを拠点に体操はできる。他の競技はどうか。指導者がいるかどうか。そしてうまくいくかどうかは課題。

<上野会長>

- ・ミニバスはクラブチームで成功している。個人の意思に沿ったいろいろな枠があるとい

<笠原>

- ・部活のよさは、保護者からすると家から通える（送迎をしなくていい）、お金がかからないということなので、ぜひ部活動として続けてほしい。

<石田校長>

- ・無料で部活という発想はもう無理なのではないか。選択肢が狭い。小学生でもニーズは多様化している。

<仁田副会長>

- ・今中学校の部活はどういう形か。

<野池校長>

- ・運動系は、陸上、野球、男バス、女バレー、卓球。クラブチームの子どもは部活に入らない。

<上野会長>

- ・協会がある種目でもお金を上納しなければならないため、所属する児童生徒からお金を出してもらおう。そうしないと各種大会に出られない。しかし、やれる範囲で保護者負担を少なくして改革を進めていく必要がある。
- ・大潟町はよく回っている方だと思う。野球、バレー、体操など。

(3) 小中連携

- ・資料のとおり、確実に進めている。

<上野会長>

- ・すごい仕事をしていると思う。保小中の連携は大変。敬意を表したい。
- ・重点化をして進める事が大切。情報共有をして不登校傾向を生まないための連携もしてほしい。

(4) 同和教育研究指定地区について

- ・人権教育、同和教育は保護者を巻き込んで進めていく。例えば授業参観や保護者アンケート等。

5 事務連絡

- ・第3回は2月中旬の予定。資料を事前に配付する。

6 閉会のあいさつ（仁田副会長）

- ・仕事柄、不登校児童と接している。「頑張って」という言葉は、精一杯やっている子ども、保護者にとってプレッシャーとなる。その代わりに言葉として「応援しています」を使う。大潟町小中学校の先生方、「応援しています」